

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	熊本県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	熊本大学教育学部附属中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	なし	12	23
生徒数	158	159	160	0	477	

研究の概要

1. 研究主題

教師の研修システムの再構築 (副題) 気づきから実践までの「考える力」を育成するために (主題)

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科で実施 理由：学校として、全教科に関する研究を推進しているため。
--

(2) 年次ごとの計画

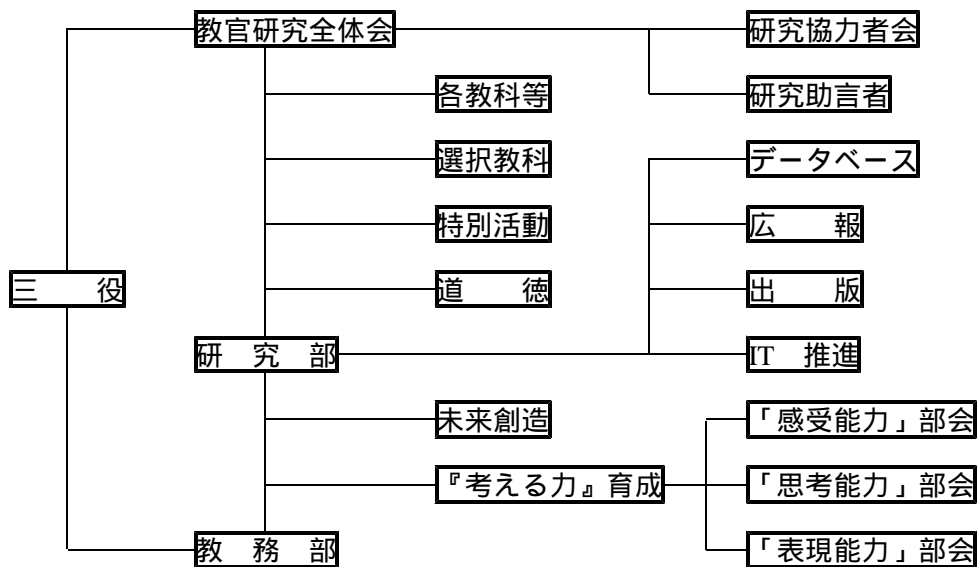
平成14年度	テーマ 豊かな想像性をはぐくむ魅力ある教育課程 ～基礎・基本の定着を図る、授業と評価の改善～ 研究の見通し(仮説) 教育課程の編成を中心に、次のような内容に取り組み、生徒に基礎・基本を定着させることができるであろう。 研究の内容・方法 各教科における基礎・基本を明らかにした指導計画を作成し、これにのっとった授業実践を行う。 指導計画と同時に評価計画を作成し、一人一人の学習状況を教師が的確に把握し、生徒が自らの学びを改善していくことができる評価システム(授業スタイルの改善、評価方法、評価時期の工夫等)を構築する。 教科の補充学習・発展学習の場として選択教科を全教科、全学年で開設し、生徒一人一人の課題に対応できるカリキュラムを構築する。
--------	--

平成15	テーマ 教師の研修システムの再構築(副題) 気づきから実践までの「考える力」を育成するために(主題) 研究の見通し 教師の研修システムの改善を中心に、次のような内容に取り組み、生徒の「気づきから実践までの『考える力』」を高めることができるであろう。 研究の内容・方法 各教科における基礎・基本の定着を図る授業を実践するための、教師の
------	--

年度	<p>授業力アップを図る研修システムの再構築。 基礎・基本の定着を図るための評価のあり方、授業改善。 「気づきから実践までの『考える力』」の分析。 ITを活用した、「気づきから実践までの『考える力』」を育成する授業実践。 *今年度は、必修教科における「気づきから実践までの『考える力』」育成のための分析および実践を中心に、選択教科と総合的な学習の時間のカリキュラムについては、次年度の内容とした。</p>
----	--

平成16年度	<p>テーマ 生徒と教師の実践力を高める研修システム（副題）*仮題 気づきから実践までの「考える力」を育成するために（主題） 研究の見通し 教師の研修システムの改善を中心に、次のような内容に取り組み、生徒の「気づきから実践までの『考える力』」を高めることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 各教科における基礎・基本の定着および「気づきから実践までの『考える力』」の育成を図る授業を実践するための、教師の授業力アップを図る研修システムの再構築。 基礎・基本の定着および「気づきから実践までの『考える力』」の育成を図るための評価のあり方、授業改善とその検証。 「気づきから実践までの『考える力』」の分析。 「気づきから実践までの『考える力』」を育成するための、選択教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間のカリキュラムの見直し。 ITを活用した、「気づきから実践までの『考える力』」を育成する授業実践とその検証。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

確かな学力を定着させるための、教師の授業力アップを図る研修システムについて研究を進めた。IT(学校グループウェア)を活用した研究授業評価の導入、模擬授業・実践発表の実施、授業を正確に振り返るためのIT(DVDカメラ、ボイスレコーダー)の活用は、授業力アップを図るための方法として有効であった。

昨年度に引き続き、必修教科における評価の取り組みにおいては、年間指導・評価計画(昨年度の計画を点検・修正したもの)を活用し、意図的・計画的に行ってきた。生徒一人一人の学習状況を把握する方策として定着した。

思考を中心として、思考の前の段階から、後の実践までの力を分析していくことで、表現をとおして自らの学びに気づき、次の学習へ進んでいく能動的な学習のかたちが見えてきた。

基礎・基本の定着を図り、生徒の苦手意識を克服する「選択補充」では、次のような生徒の変容が見られた。(例:国語科。現在、学習を進めている時点での調査である。)

国語科の学習に対する苦手意識は少なくなりましたか。

少なくなった: 0% 少し少なくなった: 100%

あまり少なくなっていない: 0% 少なくなっていない: 0%

これからの国語科学習に対する意欲が出てきましたか。

出てきた: 60% 少し出てきた: 20%

あまり出てきていない: 20% 出てきていない: 0%

昨年度同様、「選択補充」の目的である、苦手意識の克服は今年度も達成されつつある。少人数による学習を行い、個に応じた課題を教師と共に設定し、必要に応じて一斉学習と個別学習を行っていく学習は効果的である。

2. 今後の課題

授業力アップを図るための研修システムを再構築するにあたって、さまざまなアイデアを出してきたが、まだ単発的な面があるのは否めない。さらに検証が必要である。

「気づきから実践までの『考える力』は「生きる力」である。今年度の研究から、「実践力」に課題があることが見えてきた。次年度は「実践力」の育成を中心に、実践を支える「確かな学力」の定着、「豊かな心」の育成を目指す年間指導・評価計画の作成(修正)、カリキュラムの研究を進めていかねばならない。

「選択補充」の目的は達成されつつあるが、生徒が選択する際のガイダンス、オリエンテーションには工夫が必要である。一人一人の学習の定着状況を参考に、教師側が選択の助言をする時間を設定したい。

学力把握のための学校としての取組

標準学力検査(4月)

ゆうチャレンジ(2月実施予定)

各学期ごとの確認テスト

各単元レベルでの評価(評価計画にのっとり、教師の観察、小テスト等)

* 生徒の学力の定着度を測るために実施している。は各教科の評価計画に従って、年間を通じて各教科の時間で実施している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

授業実践研究会の実施

日 時：平成15年9月20日(土)

場 所：熊本大学教育学部附属中学校

テーマ：教師の研修システムの再構築(副題)

気づきから実践までの「考える力」を育成するために(主題)

対 象：全国の小中学校、高等学校、教育行政機関等

参加者：441名

研究資料集の発行

研究だよりの発行および配布

熊本県内全小中学校、高等学校、教育行政機関、全国附属中学校、教育センター

HPの公開

<http://slot.educ.kumamoto-u.ac.jp/~jun/>

県内外から、研修視察のための来校がある。

【新規校・継続校】 14年度からの継続校

【学校規模】 10～12学級

【指導体制】 少人数指導/その他

【研究教科】 国語/社会/数学/理科/外国語/音楽/美術/技術・家庭/保健体育/その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 無